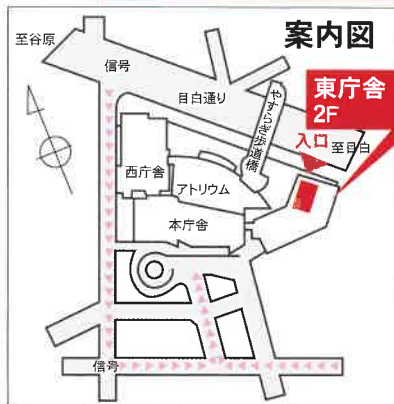


# 練馬区夜間救急 こどもクリニックご案内



## 場所

練馬区役所東庁舎2階  
練馬区豊玉北6-12-1  
☎3994-2238

## 診療日・受付時間

月曜～金曜(祝休日・年末年始を除く)  
午後8時～午後10時30分  
日曜・祝休日・土曜・年末年始  
午後6時～午後9時30分  
※昼間の診療については下記の  
休日急患診療所案内参照

## 診療科目

小児科 (必ず小児科医師が  
診療します)

## 対象

15歳以下の子ども

- 入院が必要な場合等は、連携病院に受入れを依頼します。予約は不要です。
- 受診の際は、保険証・乳・子各種医療証及びお薬手帳等をお持ちください。

## 急病のときのその他の診療所

- 練馬休日急患診療所【内科・小児科】  
練馬区豊玉北6-12-1 練馬区役所東庁舎2階 ☎3994-2238
- 石神井休日急患診療所【内科・小児科】※主として内科医が小児科を兼務しています。  
練馬区石神井町3-30-26 石神井庁舎地下1階 ☎3996-3404

受付時間	日曜・祝休日・年末年始	午前10時～午前11時30分 午後6時～午後9時30分	午後1時～午後4時30分
共通	土曜	午後6時～午後9時30分	

## 相談窓口

- \*東京都医療機関案内サービス「ひまわり」 ☎5272-0303
- \*東京消防庁救急相談センター ☎3212-2323  
(24時間対応・年中無休)  
☎プッシュ回線#7119
- \*東京都「子供の健康相談室」(小児救急相談) ☎5285-8898  
☎プッシュ回線#8000  
(平日:午後6時～翌朝8時)  
(土・日・祝:午前8時～翌朝8時)
- かかりつけ医の案内など 医療連携センター ☎3997-0121  
(平日:午前9時～午後5時)

# こどもクリニック通信No.3

## アレルギーって なに?



\*お子さんの様子がおかしいときは早めにかかりつけの小児科へ、  
また夜間の救急の場合には、「練馬区夜間救急こどもクリニック」へ  
(ご案内は裏)

練馬区・練馬区医師会

# アレルギー ってなに？

アレルギーはある物質に対して過敏であることで、その物質(抗原)を吸ったり食べたりして、過敏反応(アレルギー反応)が起こり、アレルギー症状が起きます。

原因となる抗原(アレルゲン)は、ダニ・ハウスダスト・花粉などの吸入性抗原、牛乳・卵などの食物抗原、うるし・化粧品・金属などの接触性抗原、薬剤アレルギーが代表的なものです。こういったアレルギー症状を起こしやすい人をアレルギー体質といい、この体質は遺伝することがわかっています。



## アレルギー予防

お子さんのアレルゲンを確かめて家庭内から、そのアレルゲンを除去することが重要です。特に喘息のこどものいる家庭ではダニの除去(掃除、寝具を清潔にする、カーペットの除去など)が勧められます。食物アレルギーの場合には医師と相談の上、アレルゲンである食物を除去してください。花粉症の場合花粉を避ける為には、メガネ、マスク、帽子は有効です。こどもは外で遊びや体育をするので、帰宅した時には、洋服や髪の毛についた花粉をよく払い落としてから家の中に入り、うがい、手洗い、洗顔をさせましょう。

## ～こどものアレルギーの病気～

### 1 気管支喘息

風邪やダニ抗原の吸入、運動などで気管支が収縮してゼーゼーやヒューヒューといった喘息、咳や痰などの症状と呼吸が苦しくなる呼吸困難が起き、これを喘息発作といいます。自分で呼吸困難を訴えられない乳幼児では、呼吸が苦しそうだったり、普段の生活ができない(まったく食べられない、眠れない、興奮する、逆に反応しない)場合には呼吸困難が強いと考えられるので、すぐに病院を受診してください。

### 2 アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎はかゆみを伴う慢性の皮膚湿疹をいい、アレルギー体質や、アレルギーの家系の人に起こりやすい病気です。乳児期には生後2~3か月で発症し、湿疹は最初は顔面から始まり徐々に体に広がります。2才以降になると湿疹は変化し、手足の関節部の湿疹と体の皮膚が厚くなりザラザラするのが特徴的です。



### 3 花粉症

最近では花粉症の低年齢化が問題となり、以前には見られなかった2~3才でも花粉症が発症することがあります。原因となる抗原は春のスギ・ヒノキ、秋のブタクサ・ヨモギの花粉症が知られています。症状はくしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみなどです。

### 4 じんましん

じんましんの症状は突然皮膚が「虫さされのように」盛り上がった状態になり、かゆみを伴います。普通このじんましんは2~3時間で跡形もなく消えます。じんましんの原因は非常に多く、食物、薬物、ダニなどの抗原ばかりでなく、感染、虫さされ、心理的因子、刺激因子(寒冷・温熱・日光・汗)なども原因となります。